

新聞を活用して学ぶ

「異文化との共生を考える」授業に取り組む中で

学校法人啓明学園初等学校教諭 西村美智子

1940年に創立された学校法人啓明学園は、これまで「世界を心に入れた人を育てる」という創立時の理念を受け継ぎながら、世界に目を向けた教育活動を展開してきました。その一環として初等学校では、総合学習の時間に新聞記事を利用して国際的な事件について学習する試みを実施しています。

今回は社会への認識能力、物事相互の関連についての思考力、自己表現力などの獲得にむすびつける新聞活用の学習について、西村美智子先生に、その様子を伝えていただきました。

世界を心に入れて

啓明学園は、都心から西へ約40キロメートル離れた昭島市拝島町に位置し、緑豊かな3万坪の広大なキャンパスに初等学校・中学校・高等学校の児童・生徒がともに学んでいる。

戦時下の1940年に帰国子女8名からスタートし、創立時の理念「世界を心に入れた人を育てる」を継承して、以来64年、「民族・人間の違いを超え、互いの人権と一人一人の個性を尊重する」「世界市民としての品性を身につける」等を教育方針に掲げ、日常の教育活動に取り組んできた。

現在、世界各地からの帰国生・留学生は約400名(初中高合わせて)

在籍しており、その割合は全校児童・生徒数の約4割を占めている。

新聞を活用して学ぶ

初等学校では、総合学習の時間をはじめいろいろな機会をとらえて、子ども達に世界に目を向けさせ、この地球上にはさまざまな民族・人種・異なる文化・習慣を持つ人々が一緒に暮らしていることを実感させる取り組みを大切にしてきた。

いろいろな国の人々と出会わせ交流する中で、それぞれの国には異なる自然環境や文化・歴史があることを知ったり、世界で起こっているさまざまな出来事を学びあうことを通して、異なるものが共存していくことの大変さや困難を抱える現実があ

ることを子ども達はつかみ取っていた。

それらの学習を押し進めていくにあたってとりわけ高学年で効果的な役割を果たしているのが新聞をはじめとする情報を通しての学習である。

これまでの取り組みを振り返ってみても、1999年度に「沖縄」を年間のテーマとして取り組んだ総合学習は、その日担当のニュースキャスターの子どもが「5月15日、沖縄返還27年」の新聞記事を発表したことがきっかけとなって、沖縄の過去の歴史や基地問題、自然や文化への関心が高まり、子ども達が主体となったダイナミックな学習が展開できた。

また、つい最近では、北オセチア共和国で起こった学校占拠事件に関して、新聞記事をはじめさまざまな

ニュースを持ち寄った子ども達が、それぞれ感想や自分の考えを述べ合い、意見交換する中で、単なる現象面だけをとらえるのではなく、事件の背景やその国の地理や歴史・国家間の関係などにも目を向けることができた学習へと発展させることができた。

6年生が考えた「9・11」

世界を揺るがし、人々を恐怖と不安に陥れた米国同時多発テロ事件から1年たった2002年9月11日、私はぜひこの時をとらえて授業をしておかねばならないと考えていた。

なぜなら、テロ事件発生後間もなくしてアメリカによるアフガニスタン攻撃が開始され、とどまることを



知らない暴力の連鎖に子ども達も小さな心を痛めていたからだ。

9月11日、子ども達は事件に関するさまざまな新聞記事を持ち寄った。その中で、9月4日付朝日小学生新聞の「6つの国の子ども達 私達が考える9・11」の記事をみんな読んで読み合い話し合った。

アメリカの子ども達の「テロは許せない。アフガニスタンへの攻撃は当然」という意見。「アメリカはいつも強い側であり、弱い方を武力で攻撃する。もし攻撃されて生き残ったら、ぼくはテロリストになるだろう」と述べるエジプトの子ども。韓国の子ども達の「お互いをにくむ心をなくさない限り、テロはなくならない。すべてのことに譲歩と理解が必要」との意見、中国の子ども達は「昔の歴史を知って戦争は恐いものだとか分かっていいるはずなのに、なぜ今の時代に戦争をするのか理解できない」と述べていた。

世界の子ども達のそれぞれの考えや意見を知って、6年生の子ども達も真剣に考え、自分の考えや意見を表明していった。一人の子どもは「テロで家族を失った人のことを思うと心が痛くなった。また何の関係もないアフガニスタンの人々を攻撃

するアメリカの残酷さには、テロリストと全く同じだと思った。アメリカにもテロの原因があったと思う。テロリストを裁く権利がアメリカにあるのか。また裁いても亡くなった人は報われるのか・・・憎しみは憎しみしか生まれない・・・(後略)」と書きつづった。

また、違った視点から書かれた9月11日付朝日新聞朝刊の「遺族・アフガンを見た」の記事と同新聞12日付朝刊「心に刻む9・11」3025人の死を悼む」の記事を読み比べる中で、一人一人がさらに自分の考えを深めていった。

子ども達はテロ事件で犠牲となった人々やその家族の無念さ・悲しみに心を重ね、テロ事件への憤りを新たにするとともに、報復の愚かさ・アフガニスタンの罪もない人を殺すことへの怒り、暴力で憎しみを返さないで、許しあったり理解し合うことの大切さ等、それぞれ自分の意見をしっかりと述べていた。

創作劇「空に虹を」を

上演しよう！

2学期末に行われる学芸会で、これまでの学びをもとに「平和」をテ



学芸会での創作劇「空に虹を」



スロバキアからの留学生による授業



「韓国デー」の1日



ブンブンに
ご質問やご意見を
お寄せください。

新聞づくりの応援サイト「ブンブン」では、
学級新聞・学校新聞づくりについて
先生方が探している「使える情報」を
発信していきたいと考えています。

- 割付をどのように指導すればいいの？
- 計画通りに新聞づくりが進まない
- 新聞づくりに関心を持たせるには？

こうした質問に
お答えしていきます。

NEW

先生のためのパソコン入門コーナーを
リニューアルしました。
「パソコン基本編」、「ワープロ編」に新たに
「インターネット編」と「メール編」が加わり
ました。パソコン初心者の先生方は
ぜひ一度ご覧ください。



ブンブンは財団法人理想教育財団が、
研究調査活動の一環として
運営しています。

<http://www.bunbun.or.jp/>

お問い合わせ

財団法人理想教育財団
ブンブン事務局
東京都港区新橋2-20-15 〒105-0004
TEL 03-3575-4313
FAX 03-3575-4315
E-mail: info@bunbun.or.jp

ーマに創作劇を発表しようというこ
とになった。脚本委員会を中心に話
し合いを重ね、試行錯誤しながらも
ストーリーは組み立てられていった。

内容は「2001・9・11米国同
時多発テロ事件」を通して、自分達
が考え、議論し、学んだことを、イ
ンターナショナルスクールを舞台に
演じるというものだった。それを演
じるにあたって、子ども達はこれま
で学習してきたことを振り返るとも
に、さらに戦争と平和についての
学びを深めていった。

その中で知った過去の戦争の事
実、その悲惨さと今も続く人々の悲

しみと苦しみ、それなのにまた繰り返
返される戦争。過去・現代を問わず、
戦争ほど人類にとって愚かな行為は
ないことを学んだ子ども達は、エビ
ローグで「21世紀は私達の時代、自
分達の手で、世界の空に平和の虹を
かけたい」との願いや決意を力強
く語りあげたのだった。

新聞活用で、

豊かな想像力や思考力を

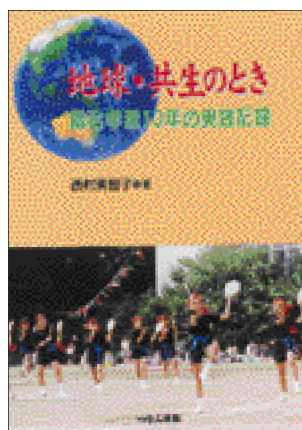
小学校段階での新聞を使った授
業・学習のねらいとして、「自分と関
わる社会や世界に関心を持たせる」

「物事に感動したり疑問を持ったり
する感性や思考を鍛える」「自らの
課題に対して探求的に学ぶ姿勢を培
っていく」というようなことが考え
られる。

これらはやがて、社会に対する認
識能力や物事相互の関連についての
思考力、自己表現力の獲得へとつな
がっていくだろう。それこそは、人
間が自立して生きていく上で、また
自身の生をより豊かなものにしてい
く上で必要不可欠な力である。

これまで取り組んできた総合学習
をはじめさまざまな学習を振り返っ
てみて、新聞を活用した学習に取り

組むことによって、社会や他者への
関心、より豊かな想像力・思考力・
表現力が子ども達に培われ、「共に
豊かに生きる」という課題追究の機
会を与えられたことを改めて実感す
るのである。



西村先生の著書『地球・共生のとき
習10年の実践記録』(つなん出版) 総合学